

新興国レポート

インド中央銀行利下げ 2会合連続

経済成長率の鈍化とインフレ懸念の後退で

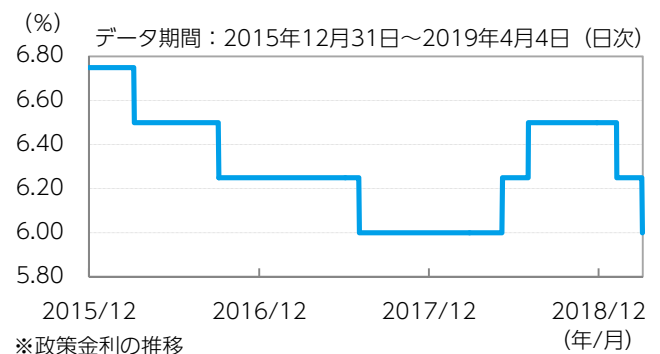
- ▶ インド準備銀行（中央銀行）は政策金利を大方の予想通り、0.25%引き下げ6.00%とした。
- ▶ 2会合連続の引き下げで政策金利は利上げ前の水準に。減速傾向を強める国内景気を刺激か。
- ▶ 下院議会選挙を控え、支持率が低下するモディ政権の支持率回復を狙った動きという見方も。

インド準備銀行（中央銀行）（RBI）は4月4日の政策決定会合において政策金利を大方の予想通り、0.25%引き下げ6.00%としました（図表1）。利下げを行ったのは2会合連続です。

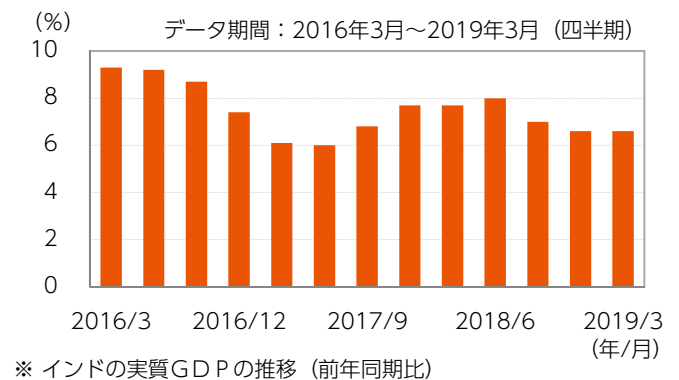
RBIはインドルピー安や原油高等によるインフレ懸念から、2018年6月に政策金利を6.00%から6.25%に、2018年8月には6.50%に引き上げましたが、前回会合と今回の2会合連続での引き下げにより、政策金利は利上げ前の水準に戻ることとなりました。RBIのダス総裁は同日の会見において、『主要先進国の中央銀行が利上げを見送ったり、利下げしたことも考慮した』と述べました。3月の米連邦公開市場委員会（FOMC）において、米連邦準備制度理事会（FRB）が年内の利上げを見送るという方針を示したことも、利下げを後押ししたとみられます。

米中貿易摩擦に端を発した世界的な景気減速の影響などを受け、インドの経済成長率（GDP）は2018年12月期に前年同期比6.6%増と更に減速し、6四半期ぶりの低水準となりました。2019年3月期も引き続き同水準での推移となっています（図表2）。原油価格の下落等を背景に、インドの物価は低水準で推移しており（図表3）、今回の利下げはインフレ懸念が後退するなかで、減速傾向を強める国内景気を刺激するものであったとみられます。また、4月11日より開始される5年に1度の下院議会選挙を前に、公約として掲げた雇用創出の鈍さや地方情勢の悪化などをめぐり支持率が低下するモディ政権の支持率回復を狙った動きであるとの見方もあるようです。市場では、経済成長を加速するためRBIが金融緩和姿勢をさらに強めるとの予想も広がりつつあるようです。

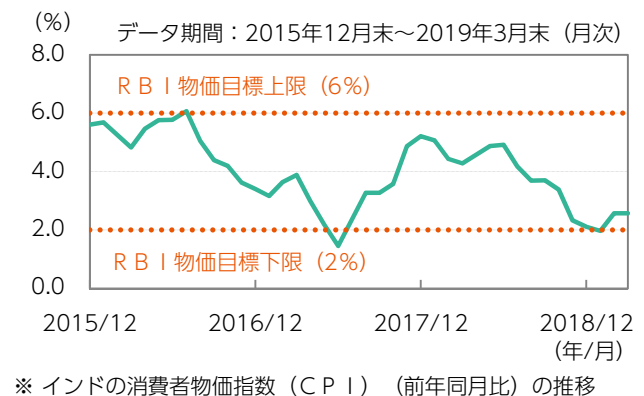
図表1：RBIは2会合連続で利下げを行った



図表2：GDPは6四半期ぶりの低水準



図表3：インドの物価は低水準で安定的に推移



出所) 図表1～3はブルームバーグのデータをもとにニッセイアセットマネジメントが作成

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>